

私の一文字

関

未来選択会議 世話人
新芝 宏之

岡三証券グループ
取締役社長



時代の「関門」

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、新芝宏之の未来選択会議世話人にご登場いただきました。

岡西 「関」は「門構え」に、ロックを施す意味を持つ「关」から成ります。関門を乗り越えた先に扉が開かれるといった思いを込め、「关」は門の外に飛び出すように、少し遊びを入れて書かせていただきました。

新芝 大変素晴らしい字ですね。私には、禅寺の大きな門、例えば京都・南禅寺の三門に見えてきました。私の選んだ一文字は、修行僧が公案を解いていくと悟りに至るという「一回透過雲関了 南北東西活路通」の禅語から来ており、関門を抜けてしまえばあとは自由でさわやかな境地があると信じています。これは、私が長らくお仕えした当社の故・加藤精一前会長から頂いた色紙にしたためられていた言葉です。

われわれ一人ひとりに人生の関門があるように、企業、社会にも関門があります。この色紙を手渡された平成金融恐慌時、加藤前会長は日本証券業協会の会長職も務めていました。証券業界を襲う荒波の中、判断、決断を下していく姿を間近で見て、多くのことを学びました。関を突破しなければ先はなく、閉まっているものはこじ開けなければいけません。やり抜く決意、覚悟が経営者には常に必要です。

そして、最近思うのは時代にも関門があるということ。いま、ロシアによるウクライナ侵攻に世界中が心を痛めて

いますが、私はここが新たな時代の関門になるのではないかと考えています。これには対になる関門があり、それは1989年のベルリンの壁崩壊です。その後グローバル化が進み世界が一つの方向に向かっていくと思われましたが、実際には格差が広がり、貧困などさまざまな問題が生じています。米ソ冷戦が終わって資本主義・民主主義が最も輝いて見えたあの瞬間から30年超が経ち、ついに時代に逆行するような出来事が起こっている。日本では、平成の幕開けと令和の始まりに重なるのです。この偶然の一致が、私に時代の関門というものを感じさせてなりません。

岡西 「関」という言葉を心に留めていらっしゃる新芝さんらしいお話です。さて、加藤前会長からは、社長就任時にもう一枚の色紙を頂いたとか。

新芝 「龍驤虎視」(龍が天に駆け上り、虎がにらみつけるように、威勢の盛んな者が世を睥睨するさま)ですね。「関」と違って、こちらの境地には一生なれないでしょう(笑)。ただ、経営者として全体を見回し、皆が幸せになる社会、会社をつくっていかねばと思っています。

岡西 経済同友会では、これからの社会を考える未来選択会議の世話人を務めていらっしゃいます。

新芝 若い世代を巻き込んだ取り組みをしています。例えば、若者が選挙に行かないのは本人たちのせいではなく、むしろ大人の責任が大きい。大人が仕組みを作ることが大事で、その中で若者が育っていく。経済同友会がその役割を果たしていきたいですね。



書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

